

連携機関ご紹介コーナー

井上内科医院

院長 井上 敬夫 Takao Inoue (安芸高田市医師会 理事)

昭和57年3月 / 獨協医科大学卒業
 昭和57年4月 / 獨協医科大学病院
 平成5年4月 / 開業

趣味・健康法

- テニス(2週間に1回)
- 散歩30分(1週間に4回)健康づくり
- スポーツ観戦



自院のやりがいは何ですか

開業して23年父のあとを継いで、地域の皆さんの健康を守るために今後も頑張っていきます。

毎日の診療で大切にされていることは何ですか

患者さんのお話を良く聴くこと。じっくり話を聴くことで、患者さんが望む最適な治療を行うことを大切にしています。

JA吉田総合病院に望むこと

今まで以上の病診連携を望みます。今後も連携を強化して患者様の安心に繋げていきます。開放病棟も活用して一緒に患者さんの健康を守りましょう。



井上内科医院

住所 安芸高田市吉田町吉田1091-1
 開院 平成5年4月
 標榜科 内科 リハビリテーション科



平成28年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

第1回 ミニ市民公開講座

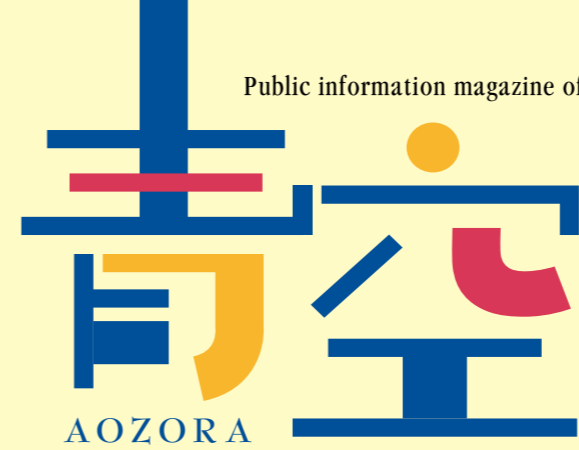
平成28年 8月30日(火) 南館4階 大会議室
 [18:00~19:00]

病院の大会議室にて一般市民対象への啓発として開催しました。今回は、当院の産婦人科医師である岩沖副院長に「産婦人科医が語るヘルスケア～自分の身体を知って人生を豊かに生きよう～」と題して、女性の年齢の移り変わりにおける病気と病気に対する心構えの講演と、当院職員と安芸高田市医療関係者で作る劇団「安芸☆高田」による、

これからの地域を支えていくための「地域包括ケアシステム」の内容について寸劇形式で説明しました。どちらも一般の方にも分かりやすい内容でした。

参加された方も、女性の方が多く「普段、医師の話を聞く機会が無いので勉強になった」、「女性であっても、自分の身体の事を知らないものだとつくづく感じた」、「検診はとても大切だと感じた」等のご意見を頂きました。

今後も一般市民の方が気になっている病気について取り上げ、気軽に参加して頂ける市民公開講座にしたいと考えております。また、もっと一般の方にお知らせできるように、広報を充実させていきますので、皆様のご参加お待ちしております。



やさしい心で
 良質な医療を。

冬号 vol.52

JA吉田総合病院

発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院
 〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666
 Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007
 2016年(平成28年)12月発行
<http://yoshida-gene-hospi.jp/>

Facebookを開きました



部署紹介

リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科長 金羽木 敏治



リハビリテーション科は、現在、理学療法士12名 作業療法士1名 言語聴覚士1名 助手2名体制により、急性期から回復期や生活期にわたり、安芸高田市及び周辺地域におけるリハビリテーションサービスの提供を病院や老人保健施設において展開しています。

当科では、医師の指示の下、リハビリテーションが必要と判断された患者様への理学療法、作業療法、言語療法、摂食機能療法の各種機能訓練や、疾病により障害が残った方々の生活環境調整など、多方面からの介入・支援を多職種が協働して行っています。

理学療法

理学療法では、術後や加齢による安静によって起こる筋力の低下や関節のこわばり、心肺機能の低下など、二次的に起こる合併症の予防に努めています。



また、筋力維持・強化や関節の動きの改善を図ることで、起きる・座る・立つ・歩くといった基本的な動作の再獲得を目指します。

作業療法

作業療法では、基本的な動作を基盤に手先の器用さの獲得(巧緻機能訓練※1)や日常生活に必要な活動の再獲得を目指します。また、身体機能の向上だけでなく、判断力や理解力を詳しく確認する検査や測定を行い、認知機能や精神面、心理面へも働きかけ、こころの活性化も図ります。



※1 巧緻機能訓練(こうちきのうくんれん)・・・指先の細かな運動の練習

言語療法・摂食機能療法

言語療法は、意思疎通が困難な状態(言語障害)の方々に対して、話す・聴く・読む・書くといった意思疎通に必要な機能の改善を目的に言語訓練を行います。

摂食機能療法では、食事をしやすくする工夫や介入(嚥下訓練)を行います。必要に応じて、医師と共に、安全に食べ物を飲み込める能力の確認や、適切な食事の形態、姿勢を見極める目的に、嚥下機能の検査を行い、誤嚥による肺炎や全身機能低下の予防に努めます。

リハビリテーション科では、主治医・各療法の担当者・看護師といった多職種でのリハビリテーションカンファレンスを定期的実施し、患者様の状態を踏まえたリハビリテーションが行えるように対応しています。また、当院から退院や転院をされる際には、地域医療連携室や転院先の担当スタッフに対して、リハビリテーション実施状況の報告や在宅訪問調査への同行により、リハビリテーションの専門家としての助言や提言を行い、退院後の患者様の生活支援活動も展開しています。今後も質の良いリハビリテーションの提供を行っていきたく思いますのでよろしくをお願いします。

基本理念

1. 私たちは何人にも平等に医療を提供します。
2. 私たちは地域の基幹病院として、最良の医療を提供します。
3. 私たちは納得と同意のもとに信頼される医療を提供します。

基本方針

1. やさしい心で安全・良質な医療・保健・福祉サービスを提供します。
2. 医療を受ける人びとの人格、権利を尊重し、全ての人に貢献します。
3. 生涯学習の精神を保ち、知識と技術の習得に努めるとともに、医療の質向上に尽くします。
4. 努力と強調で健全経営に努め、明るい職場をつくります。
5. 病院の公共性を重んじ、事業を通じて地域に尽くすとともに、法規を遵守します。

第2回 市民公開講座を開催しました

去る10月22日(土)安芸高田市民文化センターにおいて、「最期まで笑顔で生き抜く～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」をテーマとした第2回市民公開講座を開催しました。この講座は平成28年度安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業として、安芸高田市・芸北地対協との共催で安芸高田市医師会他17団体の後援をいただき、当日は住民570名余りの方々が参加されました。

オープニングはJA吉田総合病院の看護部科長会でつくる「そよ風コーラス」の歌声で幕開けし、住元病院長・竹本副市長の開会挨拶後、JA吉田総合病院整形外科 本山満部長が「膝の痛み」について、内科 石飛朋和部長が「肝胆膵疾患診療」について講演しました。その後、病院職員・安芸高田市の医療介護福祉関係



者でつくる「劇団安芸☆高田」による寸劇にて、高齢者を抱えた家族が、最期を迎えた時に本人・家族はどうしたらよいかを会場の皆様に問いかけました。

その後、特別講演として、「平穏死」緩やか最期を迎える為に」と題して、世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム医師、石飛幸三氏による講演がありました。穏やかな最期を迎えていただくために、医療はどのような介入していけば良いか、家族の思いはどうあるべきかをみんなで考える時間となりました。

閉会後のアンケートには、「家族に平穏死を迎えたいと伝えようと思います」、また、介護施設に勤務されている方からは、「胃瘻をしないと施設に入所できませんよと安易に胃瘻を勧め、本人・家族を苦しめていた」等の気付きのご意見をいただき、盛会にて安芸高田市医師会会長 徳永先生の挨拶で閉会しました。



平成28年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

院内接遇研修会+在宅医療・介護連携推進事業学習会

平成28年11月4日(金)JA吉田総合病院大会議室にて、講師に一般社団法人日本地域統合人材育成機構 J-RIHDO 代表理事 重田由美氏をお迎えして、「つながる心と接遇」をテーマに前半は院内接遇研修会、後半は在宅医療・介護連携推進事業学習会でご講演いただきました。

院内接遇研修会には当院職員約132名の参加、学習会には約63名の方にご参加いただき、人と人が協力して医療・介護を提供していくためのマナー知識の必要性について学びました。



院内接遇研修会では院内の多職種が協力していく上で、自分の日頃の言葉遣いが、他人にどんな印象を与えているかを確認



し、相手に良い印象を与えるスキルを学びました。

また、在宅医療・介護連携推進事業 学習会では、マナー知識の向上に加え、人生の最終段階における医療・介護が、ご本人の尊厳を重視したサービスの提供について、どう介入し連携していくかについて事例を交え学びました。



第42回 院内学会開催報告

当院では毎年この時期になると院内学会が開催されます。日頃の取り組みを基にした、研究の成果を発表する場は今回で42回目になります。他部門の仕事ぶりを知る機会になり、毎回とても貴重な時間となっています。

今回の院内学会のテーマは

- ① 結核感染対策におけるLANP法導入後の検討
- ② 当院病棟で糖尿病を持つ患者の看護の現状と課題
～糖尿病療養指導士看護師の認識状況と役割に関する調査～
- ③ 「在宅医療・介護連携推進事業」を通じた地域連携への取り組み
～地域の健康を支え、地域と共に歩み・取り組む体制作りを目指して～
- ④ 地域包括ケア病棟の退院支援の実態と課題

の4演題の発表がありました。

各職種が自分たちの強みを発揮し、その上で連携しながら患者さんを支援していく背景やプロセス、そして具体的な事例を発表して頂きました。これからも専門職として、多くの学びが得られるよう有意義な会にしていきたいと思っております。次回は2月の開催を予定しております。他機関の皆様のご参加・ご発表をお待ちしておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



第18回病院祭・第27回のぞみ祭



前日は時折雨の降る中、職員総出で準備しました。みんな当日の天気を心配していましたが、どうにか曇り

りで開催する事ができました。職員ボランティア137名、出演者・院外関係機関の方87名のご協力をいただき、参加者約250名の方に、観て食べて参加して楽しんでいただきました。毎年恒例となっているので、みなさん目的を持って、各ブースを観て回られ職員と談笑・相談されていました。

病院祭は、普段病院にかかられない方にも病院を知ってもらう事、地域住民の方への日頃のお礼、病院・関係機関スタッフ同士の気軽なふれあいを通しての連携強化を目的に開催しております。

今後も個々の患者様とより良い関係を築きながら、上質な医療提供を目指していきますのでよろしくお願いいたします。

